

□ 主な内容

【エコドライブシンポジウムの参加者募集中！】

平成 27 年度エコドライブシンポジウムを 11 月 17 日 (火) 13:30～16:10 に内幸町ホールで開催します。当日、エコドライブ活動コンクール表彰式も同シンポジウムのなかで行います。

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive_sympo15.pdf

□ 目次

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 111 回)

- 「最もエコな交通手段『徒歩』の積雪地域における転倒の危険性について」

【北海道大学大学院工学研究科 教授 高野 伸栄】

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 111 回)

- 「廃止バス路線の復活から地域住民への定着につなげたバス利用促進の継続的な取り組み」

【宮城県多賀城市市長公室行政経営担当 北村 亮太】

3. ニュース／トピック

- 平成 27 年度「超小型モビリティの導入促進」事業の第 2 回公募について【国土交通省】

- 「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

- 埼玉県内の圏央道全線開通について【国土交通省】

- 第 11 回エコツーリズム大賞の募集について【環境省】

- 「第 44 回東京モーターショー2015」への出展について【環境省】

- 超小型モビリティのさらなる導入促進に向けた調査の実施について【関東運輸局】

- エコモビ実践キャンペーンについて【愛知県】

- スマート・ムーブキャンペーンの実施について【防府市】

- 公共交通オープンデータ協議会の設立について【公共交通オープンデータ協議会】

- パーソナルモビリティ・シェアリングサービスの実証実験の拡大について【パーク 24、トヨタ自動車】

- 米国カリフォルニア州における EV の行動範囲拡大実証の実施について【日産自動車、兼松】

- 国連機関等による環境法の新情報ポータルサイトの開設について【国連環境計画】

- スクールバスのディーゼル排出削減のための助成金の拠出について【アメリカ環境保護庁】

4. イベント情報

- 地域公共交通シンポジウムin中部【2015/11/2】

- 地域公共交通シンポジウムin北海道【2015/11/5】

- 第 26 回バリアフリー推進ワークショップ「超高齢化時代の中山間集落とオールド・ニュータウンにおけるモビリティの処方箋～パーソナルモビリティの活用～(仮)」【2015/11/12】
- 都市交通研究所創立 50 周年記念シンポジウム【2015/11/13】
- 平成 27 年度エコドライブシンポジウム【2015/11/17】
- 第 13 回 ITS シンポジウム 2015【2015/12/3-4】
- エコプロダクツ 2015(第 17 回)【2015/12/10-12】

5. その他

- EST パートナースHIP会員制度に参加する団体を募集しています！
- EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 記事募集中！

=====

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 111 回)

●「最もエコな交通手段『徒歩』の積雪地域における転倒の危険性について」

【北海道大学大学院工学研究科 教授 高野 伸栄】

秋が一層深まってきました。

札幌では平年で今月中には初雪、12 月には根雪となります。根雪となると、ツルツル路面が至る所に発生し、転倒事故が頻発します。これによる救急車出動回数は多い年で 1,000 件を超えます。しかし、負傷しても、救急車を呼ばない場合も多く、昨年度、札幌市内 3,000 戸を対象に調査を行いました。

これによると、昨年度 1 年間で市民の約 10%もの人が冬期路面転倒により負傷しているということがわかりました。負傷内容は打撲が 2/3 を占めますが、骨折等の重傷事故も少なく、約 1 割が入院しているということです。

このため、お年寄りを中心に、ツルツル路面に対する恐怖感はとても大きく、外出を控える人も大勢います。歩くことは単なる移動手段ではなく、生きることそのものです。整形外科医によると、転倒事故で入院すると、そのまま寝たきりとなり、亡くなってしまう方も多いいいます。

対策としては、路面管理だけでは対応できるものではなく、歩く人への注意喚起、怪我をしない工夫、市民の砂まきの協力など、総合的なまちのマネジメントが必要なのです。

東京でも、ひとたび雪が降ると、札幌の一年に匹敵する救急車が出動すると聞きます。積雪下では対自動車、自転車事故より、歩くことそのものがはるかに危険なことなのです。

参考:ウインターライフ推進協議会 <http://tsurutsuru.jp/>

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 111 回)

●「廃止バス路線の復活から地域住民への定着につなげたバス利用促進の継続的な取り組み」

【宮城県多賀城市市長公室行政経営担当 北村 亮太】

宮城県多賀城市では、現在、市の東部地区と隣町の七ヶ浜町を結ぶ多賀城東部線と、市の西部地区を循環運行している多賀城西部線の2路線を運行しています。平成8年から運行している多賀城東部線は、ひと月に約6,000人の乗降客があり、主に通勤・通学に利用されている比較的運営が安定した路線となっています。一方、西部地区は、かつて民間バス事業者が運行していた路線が存在しましたが、田畑や平地が多い地域性等から利用者数が年々低下し、平成18年に廃止となりました。その後、市内事業者のご厚意による無償のコミュニティバスが運行していましたが、東日本大震災により撤退を余儀なくされました。

震災後は、仮設住宅入居者や被災により車等を失った地域住民から、バス路線復活を求める声が上がったことから、国土交通省の補助事業を活用し、平成23年12月に試験運行として多賀城西部線を復活させました。路線を復活させた際、国や県の補助事業に必要以上に頼らない持続可能な本格運行を目指すため、地域住民と今後の市内バスの運行ルートやダイヤ、運賃等について議論するワークショップを開催し、平成25年2月に「多賀城市生活交通ネットワーク計画」を策定しました。

その後、乗降調査等で得た意見を基にしたダイヤ・ルート・運賃の改正や、バスの便利さをPRしたバスマップの配付、定期的にバスを利用されている方へ向けたお得な回数券・フリーパスの発行、バスと電車の乗り継ぎ例を示したチラシの配付、自家用車での送迎からバス利用への転換を促すPR等、継続的な利用促進の取り組みを行いました。

この結果、試験運行を開始した直後はひと月に1,390人だった利用者が、平成25年度に1,510人、平成26年度に2,020人と年々増加しました。さらに、週に3日以上利用する高頻度利用者の割合も増え、多賀城西部線が住民に定着しつつあります。

今後は、仮設住宅から災害公営住宅への入居移転やJR仙石線多賀城駅前の再開発事業などのまちづくりにより、本市の人の流れがこれまで以上に大きく動くと予測されていることから、新たな利用促進策を継続的に展開し、好循環の流れを加速させていくことが必要であると思っています。

3. ニュース／トピック

●平成 27 年度「超小型モビリティの導入促進」事業の第 2 回公募について【国土交通省】

国土交通省は、新たな外出・移動のきっかけをつくる超小型モビリティを活用し、地域特性を生かした魅力あるまちづくりによる地域振興・観光振興等の観点から、地方公共団体等の主導によるまちづくり等と一体となった先導導入や試行導入の優れた取組みを重点的に支援する「超小型モビリティの導入促進」事業を実施しています。この度、平成 27 年度事業の第 2 回として、対象事業を公募しています。〔募集締切：12 月 11 日（金）〕

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000151.html

●「地域交通グリーン化事業」の対象案件の決定について【国土交通省】

国土交通省では、環境性能に特に優れた電気自動車の普及を効果的に加速し、低炭素まちづくりや地域・交通事業のグリーン化を推進する観点から、電気バス・電気タクシー・電気トラック等を活用し、他の地域や事業者による電気自動車の導入を誘発し急速に普及が伝播するような先駆的事業を行う自動車運送事業者等を重点的に支援する「地域交通グリーン化事業」を実施しています。この度、応募のあった事業計画について、外部有識者による評価結果も踏まえて選定し、本事業の支援対象とする案件を決定しました。

http://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha10_hh_000150.html

●埼玉県内の圏央道全線開通について【国土交通省】

国土交通省は、10 月 31 日に埼玉県内の圏央道が東名高速から東北道までつながることと更に開花するストック効果について発表しました。都心の渋滞を回避することが可能となり、周辺一般道の交通環境が大きく改善します。

http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000564.html

●第 11 回エコツーリズム大賞の募集について【環境省】

環境省では、エコツーリズム推進法に基づき、エコツーリズムの普及、定着のための様々な取組を進めています。その一環として、エコツーリズムに取り組む事業者、団体、自治体などを対象に、「第 11 回エコツーリズム大賞」を募集しています。〔募集締切：11 月 20 日（金）〕

<http://www.env.go.jp/press/101558.html>

●「第 44 回東京モーターショー2015」への出展について【環境省】

環境省では、10 月 30 日（金）～11 月 8 日（日）の間東京ビッグサイトで開催される「第 44 回東京モーターショー2015」（主催：一般社団法人 日本自動車工業会）に日本自動車工業会との共催ブースを出展します。省エネ・低炭素型の「製品」「サービス」「行動」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す新しい国民運動「COOL CHOICE」を

パネルや映像等で紹介するほか、その中でも特に、「エコドライブ」及び「エコカーの選択」の取組について紹介します。

<http://www.env.go.jp/press/101579.html>

●超小型モビリティのさらなる導入促進に向けた調査の実施について【関東運輸局】

関東運輸局では、環境に優しく、人口減少・高齢化時代に対応するコンパクトなまちづくりに適した超小型モビリティの導入促進を進めています。この度、江東区と連携し、超小型モビリティの公道走行を可能とする基準緩和認定制度の運用面における課題を整理、改善することを目的として、超小型モビリティのさらなる導入促進に向けた調査を実施します。

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/press/date/1509/0930/ct_p150930.pdf

●エコモビ実践キャンペーンについて【愛知県】

愛知県では、自家用車と公共交通、自転車、徒歩等をかきこく使い分けるライフスタイルである「エコモビリティ ライフ」(エコモビ)を県民運動として推進しています。11月19日(木)～12月18日(金)の期間、エコモビ実践キャンペーンを実施し、エコ通勤、エコドライブなどを推進します。12月1日(火)まで参加事業所を募集しています。

<http://www.pref.aichi.jp/kotsu/ecomobi/action/27campaign.html>

●スマート・ムーブキャンペーンの実施について【防府市】

山口県防府市では、通勤・通学・買い物・旅行など、日常生活にある移動を賢く見直そうとする活動「スマート・ムーブ」について理解を深め、できることから実践するきっかけを作り、取組の輪をさらに広げていくことを目的に、10月16日(金)～11月21日(土)の間、スマート・ムーブキャンペーンを実施します。

<https://www.city.hofu.yamaguchi.jp/soshiki/15/smartmove-h27.html>

●公共交通オープンデータ協議会の設立について【公共交通オープンデータ協議会】

東京地域の公共交通事業者及びICT関係事業者等30団体は、鉄道、バス、飛行機等の運行に関する情報や、駅・停留所・空港といった交通ターミナル施設情報のオープンデータの実用化を推進するための産官学共同の協議会として、公共交通オープンデータ協議会を設立し、本格的に活動を開始しました。

<http://www.odpt.org/pressrelease/150925-01/>

●パーソナルモビリティ・シェアリングサービスの実証実験の拡大について【パーク24、トヨタ自動車】

パーク24とトヨタ自動車は、パーソナルモビリティ「TOYOTA i-ROAD」およびトヨタ車体制「COMS」を使用し、「Times Car PLUS × Ha:mo(タイムズカープラスハーモ)」として、対象車両および貸出・返却ステーションの規模を拡大するとともに、利用者の乗車時手続きの簡

素化等サービス内容の一層の充実を図り、より実用的なシェアリングサービスとして展開するため、平成 27 年 10 月 20 日(火)～平成 28 年 3 月末までの約 6 ヶ月間にわたり、東京都心部(千代田区・中央区・江東区等)を中心にシェアリングサービスの実証実験を実施します。

<http://www.park24.co.jp/news/2015/09/20150929-1.html>

<http://newsroom.toyota.co.jp/jp/detail/9634714/>

●米国カリフォルニア州における EV の行動範囲拡大実証の実施について【日産自動車、兼松】

日産自動車と兼松は、米国カリフォルニア州で EV の行動範囲拡大実証を実施すると発表しました。これは、両社が実施した実証前事前調査結果をもとに、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)から正式に委託先として選定されたもので、EV の行動範囲を都市間移動に拡大することを目的としています。

http://www.nissan-global.com/JP/NEWS/2015/_STORY/151021-02-j.html

http://www.kanematsu.co.jp/press/20151021_001430.html

●国連機関等による環境法の新情報ポータルサイトの開設について【国連環境計画】

国連機関などの国際機関が、環境に関する条約や法律にアクセスしやすくした新たなポータルサイト「法と環境のオントロジー(LEO)」を開設しました。環境分野の法律や国際条約、多国間環境協定の概念と枠組みを扱った情報ポータルサイトで、政策決定者、ジャーナリスト、研究者、NGO 等のほか、一般市民や学生も最新情報をタイムリーに入手できるポータルサイトです。

<http://www.unep.org/newscentre/Default.aspx?DocumentID=26844&ArticleID=35435&l=en>

●スクールバスのディーゼル排出削減のための助成金の拠出について【アメリカ環境保護庁】

アメリカ環境保護庁は、スクールバスからのディーゼル排出を削減するため、公共および民間のスクールバス所有者に、旧式のバスの買替または改良するための助成金として約 700 万ドル拠出することを公表しました。

<http://yosemite.epa.gov/opa/admpress.nsf/d0cf6618525a9efb85257359003fb69d/1002ede060c1baba85257ece0067b670!OpenDocument>

4. イベント情報

●地域公共交通シンポジウムin中部【中部運輸局】

日程:平成 27 年 11 月 2 日(月)13:30～17:30

場所:ウィルあいち 4 階ウィルホール

主催:中部運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/chubu/kisya015/kousei20151008.pdf>

●地域公共交通シンポジウムin北海道【北海道運輸局】

日程:平成 27 年 11 月 5 日(木)13:30～17:00

場所:センチュリーロイヤルホテル 20 階グレイス

主催:北海道運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/press/presspdf/2710/271005.pdf>

●第 26 回バリアフリー推進ワークショップ「超高齢化時代の中山間集落とオールド・ニュータウンにおけるモビリティの処方箋～パーソナルモビリティの活用～(仮)」

日時:2015 年 11 月 12 日(木)18:00～20:00

場所:TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター カンファレンスルーム 6B(予定)

主催:公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/benkyo/benkyo_top.html

●都市交通研究所創立 50 周年記念シンポジウム

日時:2015 年 11 月 13 日(金)14:00～

場所:中央電気倶楽部 5 階 大ホール

主催:関西鉄道協会都市交通研究所

http://www.tokouken.jp/sympo_50th.html

●平成 27 年度エコドライブシンポジウム

日時:2015 年 11 月 17 日(火)

場所:内幸町ホール

主催:エコドライブ普及推進協議会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecodrive/data/ecodrive_sympo15.pdf

●第 13 回 ITS シンポジウム 2015

日時:2015 年 12 月 3 日(木)、4 日(金)

場所:首都大学東京

主催:特定非営利活動法人 ITS Japan、首都大学東京

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/its_symposium13/

●エコプロダクツ 2015(第 17 回)

日時:(1 日目)2015 年 12 月 10 日(木)10:00~18:00

(2 日目)2015 年 12 月 11 日(金)10:00~18:00

(3 日目)2015 年 12 月 12 日(土)10:00~17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:一般社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2015/>

5. その他

●EST パートナシップ会員制度に参加する団体を募集しています！

2013 年 7 月 16 日から募集を開始し、38 団体が参加しています。

会員サイトトップページで、交通と環境に関するニュースをリアルタイムで掲載しています。

http://www.estfukyu.jp/partnership_gaiyo.html

●EST 普及推進委員会事務局は Twitter による情報提供を始めています！

<https://twitter.com/officeEST>

●交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

●「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp/>

●エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

<http://www.ecomo.or.jp/environment/eco-commuter/index.html>

●交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

●記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail:magazine@ecomor.jp(担当:熊井)

発行:環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.blain.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト:<http://www.estfukyu.jp/>